

思い出の高原学校 その1

思い起こせば、先週の月・火・水の3日間で高原学校に行っていたんですね。今となっては、すべてがよい思い出ですね。それもすべてみんながしっかりと決まりを守り、一つひとつの活動に全力で取り組んでくれたからです。友だちの作文を読みながら、懐かしの高原学校を振り返りましょう。

高原学校1日目といえば・・・

高原学校1日目といえば、やっぱり「エレジョン」ではないでしょうか。北中の長い歴史の中でも同じカッターにTVカメラと芸人さんが乗ったということはないと思います。『伝説の掛け声！いくぞ！！』という呼びかけのもと、「エレジョン」とみんなで声を合わせてカッターを漕ぎ出したけど・・・進まなかった・・・これもこれで、先生はとても良い思い出として残っています。また、7組の女子は先生が今までの高原学校では経験したことがないくらい、女子が内側を漕いでくれました。通常、カッターの内側は大変力が入るので男子が漕ぎます。しかし、市川さん、松尾さん、山崎さん、小淵さんらを筆頭にほとんどの女子が一度は内側で漕いでくれました。これは、本当に素晴らしいことだと思います。

カッターで、みんなで力を合わせて漕いで、前に進んだ時の感動。あの感動を2学期の学校行事、そしてクラスの絆に生かしていけたら、こんなに素晴らしいことはないですよ。いつまでも、カッターで得た感動を忘れずに2学期もクラス一丸で頑張ろう！



高原学校を振り返って

市川智美

私は、はじめ高原学校に行くことを嫌だなあと感じていました。1日目のカッターでは、内側ほどは力を使わない外側を漕ぎました。そうしたら、内側の方がカッターに引っかかり倒れそうになって大変そうでした。榛名に上ってくる途中、霧雨が降っていてハイキングやカッターができるか心配だったけど、1日目からカッターができてとても楽しかったです。

榛名に来て感じたことはとても霧がすごいということです。山道を登るときも町が見えないくらい霧がすごかったです。夜のキャンプファイヤーでは、暑かったけどジンギスカンを頑張りました。体育の授業の時よりも盛り上がりとても楽しかったです。次の日のウォークラリーでは、班がバラバラになってしまい、あまりよいゴールができませんでした。2日目夜のレクリエーションでは、馬跳びリレーに参加しました。みんなで協力してできましたが、とても疲れました。背の高さがバラバラだったので、高かったり、押されたりして大変でした。

最後の日のカッターでは、ずっと内側に乗っていました。外側と違い、内側のカッターはとても重かったので、腕がとても痛くなりました。全クラスで競争した時も内側にいたので、とても疲れました。結果は今ひとつだったけど、みんなで漕いだカッターはとてもよい思い出になりました。疲れてしまい、帰りのバスでは休んでいたけど、みんなでやるバスレクがとても面白かったです。

